

# 第2回日本神経理学療法学会SIGs

会 期：2019年1月12日（土）9時50分～  
会 場：楽楽楽ホール（JR・地下鉄：長町駅直結）  
テ ー マ：「神経理学療法学の発展と臨床応用」  
大 会 長：阿部 浩明（広南病院リハビリテーション科）

基調講演「日本神経理学療法学会が積極的に取り組むべき課題（仮）		吉尾雅春
シンポジウム		
S1「先端的研究と臨床との融合」	河島 則天	山口 智史
S2「臨床の脳画像所見と理学療法の実際」	阿部 浩明	田村 哲也
S3「先端脳画像解析から得られる情報と臨床への展開」	玉利 誠	神 将文
S4「パーキンソン病の理学療法最前線」	岡田 洋平	斎藤 均
S5「脳卒中片麻痺者の歩行再建」	関口 雄介	大畑 光司
SIG「脳性麻痺（成人）」	春田 大志	脇田 正徳
SIG「脊髄損傷者に対するロボティクストレーニング」		横井 裕一郎
SIG「pusher 現象の臨床」	藤野 雄次	浅井 直樹
SIG「下肢装具に関わる地域連携」	芝崎 淳	辻本 直秀
SIG「Neuromodulationの最前線と臨床応用」	松田 雅弘	大垣 昌之
		犬飼 康人

SIG s まとめ

# SIG-2018 仙台

## SIG1 脳性麻痺（成人）

担当 中 徹（群馬パース大学）

### シンポジスト

学齡-青年・・・春田 大志（宇治支援学校）

成人-高齡・・・横井裕一郎（北海道文教大学）

# SIG1 脳性まひ (成人)

## 臨床的課題の概念と課題

学童→生徒→学生→成人→壮年→老年  
時間経過による変化と重点のシフト

- 1) 体格・体力の変化
- 2) 運動習慣の変化
- 3) 運動器の変化
- 4) エネルギー代謝の変化

Physical Problem

- 5) 気分・感情の変化
- 6) 知的要求の変化

Mental Problem

- 7) 人的環境の変化
- 8) 物理的環境の変化
- 9) 医療・福祉環境の変化

Social Problem

- 10) Well being...

Have a Good Life

# SIG1 脳性まひ (成人)

## 現時点での臨床的課題

# 成人期にむけ,運動器・  
神経系・代謝系の課題・  
教育課題が変化する実相

# 成人期にむけ,有効な運  
動器・神経系・代謝系の  
課題・教育課題の明確化

# 幼少期における運動体  
験の量的質的充足を保障  
する重要性の再検証!!

## 今後の研究課題

# 疾患による要因の障害  
# 高齢化による要因の障害  
# 脳性まひは老化が早い?

# 成人期でも、若い時期と  
壮年を過ぎる時期で異な  
る症候に対する介入方法

# 早期から運動体験の充足  
と成功体験＝継続性を保  
障する現実的方法の開発

JSNPT SIGs

— 日本神経理学療法学会 参加型フォーラム2018 —

SIG 2

# 脊髄損傷者に対する ロボティクストレーニング

座長 : 羽田晋也 (星ヶ丘医療センター)

シンポジスト : 浅井直樹 (神奈川リハビリテーション病院)

## 問題提起

1. 目的は？
2. ロボットの機能と適応
3. ロボット無い施設で行うべきこと

## 討議結果

1. 機能改善 or 日常生活用途
2. Lokomat→機能改善 ReWalk→機能改善 HAL→ADL
3. 免荷式歩行器・長下肢装具等による立位・歩行練習  
エルゴメーター等による下肢運動、電気刺激

## これから取り組むべき課題

1. 機能改善→効果検証 日常生活用途→テクノロジーの進歩
2. ロボットと障害のマッチング
3. 立位・歩行練習が他のADLに及ぼす影響を明らかにする

**再生医療**

**神経線維の可塑性**

**ニューロリハ**

**歩行：使用依存性**

**障害**

**費用**

**目的**

**臨床課題**

**&**

**今後の方向性**

**頻度**

**手段**

**強度**

**精度**

**CPGの賦活**

**痙縮  
：速度依存性**



**JSNPT SIGs**

**– 日本神経理学療法学会 参加型フォーラム2018 –**

**SIG 3**

# **Pusher現象の臨床**

シンポジスト：藤野雄次（埼玉医科大学国際医療センター）  
辻本直秀（西大和リハビリテーション病院）

座長：松田淳子（大阪行岡医療大学）

## 問題提起

Pusher現象は未だ出現メカニズムが解明されていない。改善を図るために必要な知識と方策は？

## 討議結果

- ◆ 垂直に関わる認知的側面以外の要素の影響を明らかにしていく
- ◆ 従来特異的な姿勢を示す影響要素であると言われているSPVは本当に自覚的姿勢的垂直位を見ることができているのか？  
⇒ 先行研究の結果や認知的側面だけで解決しようとせず、丁寧な観察と分析により病態を紐解いていくことが重要。

## これから取り組むべき課題

- ◆ 純粹例の集積や上記の手続きを続け、継続して出現メカニズムの解明を行っていく

# S I G 4 「下肢装具に関わる地域連携」

## プレゼンター

芝崎 淳先生（総合南東北病院）

大垣昌之先生（愛仁会リハビリテーション病院）

座長 諸橋 勇

（いわてリハビリテーションセンター）

## 【現在の課題】

- ・在宅での下肢装具修理、再作成における相談、手続きなどのシステム不十分（誰に相談したらいいか分からない）
- ・理学療法士の修理の制度、相談システムの認識不足
- ・理学療法士の縦断的な情報交換など連携が不十分
- ・病期で機能分化して、一連の流れを一人の理学療法士が把握できない時代
- ・早期退院：在宅でのフォローアップ不十分（悲惨な装具を使い続けている）

## 【これから取り組むべき課題】

- ・地域での現状の調査
- ・地域の実情に合致したシームレスなシステムづくり
- ・理学療法士の知識の向上、他職種への啓蒙（勉強会など）
- ・情報交換システムの構築（例：装具ノート、手帳など）
- ・装具に対する意識改善
- ・生活期で歩行トレーニングできる環境づくり
- ・治療技術だけでなく、連携技術の向上

ガイドラインの準拠し、理学療法士の責任のもと、まずは行動！

# SIG

## Neuromodulation の最前線と臨床応用

**座長:** 北山哲也 (山梨リハビリテーション病院)

松田雅弘 (城西国際大学福祉総合学部理学療法学科)

**指定発言:**

松田雅弘 (城西国際大学福祉総合学部理学療法学科)

犬飼康人 (新潟医療福祉大学)

# 討議内容

## 1. 基礎的問題点

(研究関連問題と今後の方向性)

## 2. 現実的問題点

(臨床関連問題と今後の方向性)

# 1) 現時点での臨床課題

TMSに関しては医師が主導で実践している病院は増えている。  
tDCSに関しては医療的な認可が難しく臨床研究にとまっている。

## 臨床研究の課題

- 1) 刺激後のリハビリテーションアプローチを具体化されていない  
→ 集中的な理学療法の内容は(運動負荷量、環境・課題設定など)?
- 2) 脳機能のネットワークを考慮した刺激による変化から、特に脳損傷後の脳機能のネットワークを明確にするような研究  
→ 損傷部位の違いによる刺激方法の検討、刺激に関する仮説を明らかにする  
脳画像解析(拡散テンソル画像など)を活用
- 3) 教育・臨床現場の環境の充実が必要不可欠

## 臨床応用として

- 1) 刺激にプロトコール、刺激後のリハビリテーションのプログラムの明確化
- 2) 併用療法の検討(BWSTT・ロボティクス・CI療法など)

# 2) 今後の研究すべき方向性

## 臨床研究の課題

1) 刺激後のリハビリテーションアプローチを具体化されていない

→ どのようなリハビリテーションアプローチが有効か？ 関連研究の推進

(内容・頻度・強度など)

2) 脳機能のネットワークを考慮した刺激による変化から、特に脳損傷後の脳機能のネットワークを明確にするような研究

→ 病態や時期の違いによっても Modulation は異なる (適応を把握すること)。

また、USN の研究で腹側経路の強化するパターンの刺激もみられ、単純に刺激下の脳局在の変化ではなくネットワークを意識した研究の推進

## 臨床応用として

1) 刺激にプロトコール、刺激後のリハビリテーションのプログラムの明確化

2) 併用療法の検討

→ 電気刺激療法、CI 療法、ロボット、バーチャルリアルトレーニングなど